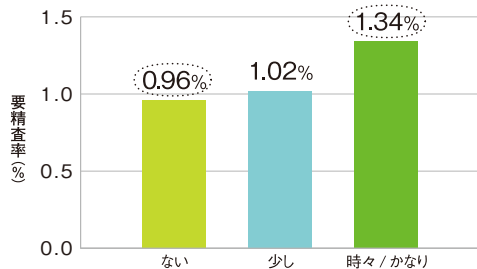


2 妊娠中のパートナーからの暴言は 赤ちゃんの聴覚に影響する？

「妊娠中に受けた暴言による新生児聴覚スクリーニング要精査の増加」より

▶言葉の暴力の頻度と新生児聴覚スクリーニング検査の要精査率



妊娠中にパートナーから言葉による暴力をたくさん受けると、出産後の新生児聴覚スクリーニング検査で、「精密検査が必要(要精査)」となる率が上がることが分かりました。新生児聴覚スクリーニング検査を受けた79,985人のうち、「要精査」になった赤ちゃんは0.98%(787人)でした。暴言が「ない」場合は0.96%ですが、パートナーからの暴言の頻度が増えると「要精査」となる赤ちゃんが増え、暴言が「時々/かなり」では1.34%と増加しました。

新生児聴覚スクリーニング検査で要精査になったすべての子どもが最終的に難聴になるか否かは、これからの研究によりますが、少なくともお父さん(パートナー)からお母さんへの暴言が赤ちゃんの神経発達に悪影響を及ぼす可能性が示唆されました。悪影響を及ぼす原因として、お母さんの強い精神的なストレスが赤ちゃんの発達を遅らせること、お母さんのドキドキはおなかの中にいる赤ちゃんにも伝わること、騒音によって赤ちゃんが難聴になることが知られていることから、暴言にも赤ちゃんの発達を遅らせる可能性があると考えています。このことから、お母さんのためだけでなく、赤ちゃんのためにも、心地よい環境がとても大切だということが分かりました。



小森 香先生
高知大学医学部
環境医学教室
特任研究員/臨床心理士